

自動運転バスを活用した利用者向けサービス体験の検証について

本実証では、自動運転バスの走行・通信制御に関する技術検証とは別に、利用者の移動体験に着目したサービス連携の検証もあわせて実施します。本取り組みは、地域社会 DX 推進パッケージ事業（自動運転レベル4 検証タイプ）とは異なる枠組みで行うものであり、視覚障がい者支援や商業施設での案内ロボット連携、VTuber による車内アナウンス、乗客属性に応じた広告サイネージといったサービスを通じて、より快適で魅力的な移動体験の実現をめざします。これらの機能は、VTuber による車内アナウンスを除き、実証期間中の一部日程にてデモンストレーション形式で提供します。なお、本取組は東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校 高等課程、東京デザインテクノロジーセンター専門学校 高等課程、AWL 株式会社、株式会社 Impact mirAI からの提供・支援を受けて実施しています。

1. 検証の位置づけと目的

自動運転バスの社会実装においては、安全性や車両制御といった技術面に加え、利用者が「乗りたい」と感じられる体験価値の提供が求められています。本検証では、車内外のデジタルサービスとの連携を通じて、快適性・アクセシビリティ・利便性を高め、多様な利用者が安心して移動できるサービスモデルの確立をめざします。

2. サービス体験検証の内容

（1）視覚障がい者支援（白杖検知）【東部北ルート】

車内カメラで白杖利用者を AI 検知し、その情報を遠隔監視室や案内ロボットへ通知する仕組みを検証します。視覚障がい者が単独で乗車しても安全に移動できる環境づくりをめざします。

※一部日程のみ、デモンストレーション形式で実施予定

（2）案内ロボットとの連携誘導【東部北ルート】

白杖検知情報などと連動し、施設内に配置された案内ロボットが目的地まで誘導する仕組みを検証します。商業施設内での移動支援モデルとして、視覚障がい者や観光客等への案内強化をめざします。

※一部日程のみ、デモンストレーション形式で実施予定

（3）VTuber による観光案内・乗客対応【東部北／秋保ルート両方】

車内ディスプレイを通じた VTuber による運行情報や観光案内の発信にあわせて、リアルタイムで乗客からの問い合わせに回答できるかの検証も実施します。観光利用・日常利用の双方において、移動そのものを楽しめる体験の提供をめざします。

※リアルタイムでの乗客対応は一部日程のみ、デモンストレーション形式で実施予定

（4）乗客属性に応じたサイネージ広告表示【東部北ルート】

車内サイネージにより、座席に座る利用者の属性（年代・性別）を判別し、興味・関心に応じた広告や周辺施設情報を提示する仕組みを検証します。移動中に地域情報を入手することで、回遊促進効果や移動価値向上を図ります。

※一部日程のみ、デモンストレーション形式で実施予定

＜実証実験のイメージ＞

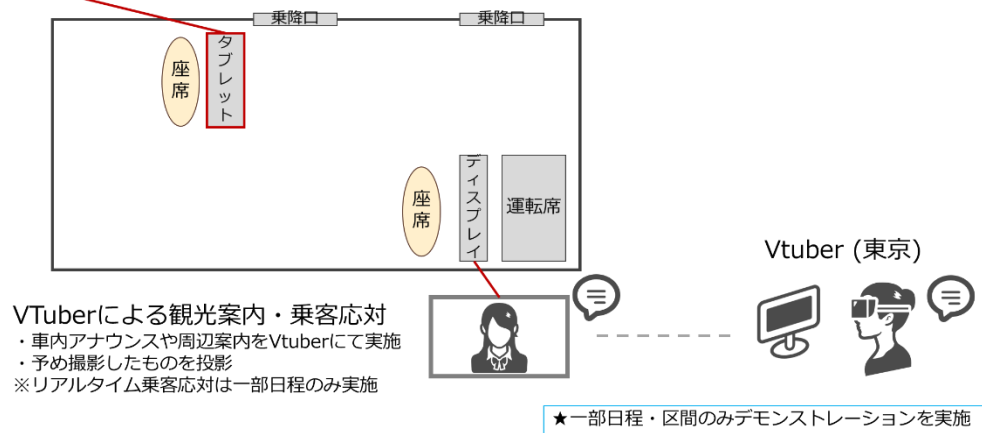
乗客属性に合わせた広告の掲出（★）

- ・タブレットに付属のカメラで乗客の属性を検知
- ・属性に合わせた広告を掲出



乗車型案内ロボット（★）

- ・商業施設のバス停へ到着後、バス停から施設まで案内
- ・利用者の手動操縦で目的施設への移動が可能



3. 各社の役割と技術要素

NTT ドコモビジ

- ・実証実験全体の計画策定、全体管理

ネス株式会社

東京スクールオ

- ・所属 VTuber の協力による自動運転バスの車内アナウンス

ブミュージック

&ダンス専門学

校 高等課程

東京デザインテ

- ・VTuber による自動運転バスの車内アナウンス映像撮影/編集、環境構築

クノロジーセン

ター専門学校

高等課程

AWL 株式会社

- ・乗客の属性に合わせたデジタルプロモーションにおけるアプリ開発

株式会社

- ・乗客の属性に合わせたデジタルプロモーションにおけるサイネージ提供

Impact mirAI